



## 信と疑

信の世界に偽詐多く  
疑の世界に真理多し 福沢諭吉

中部電力株式会社  
常務取締役 技術開発本部 本部長 品田知章

世間の愚民が信じていることは真理よりも偽詐が多いので、疑ってかかった方が良いという意味のようである。私はこれをもう少し拡大して、有識者とか専門家も含め、一般に信じられていることには誤りが多いと考えている。いいかえれば、誤っていても、世人は耳に快い、あるいは単に理解しやすい説を信ずることが多いということで、どうも、ガルブレイス教授が名著「ゆたかな社会」の第2章でながながと批判した“通念(conventional wisdom)”と、“信の世界”が同じように感じられる。

幕末の攘夷思想は信の世界であり、かりに国民投票でもやれば圧倒的に開国論を否定したであろう。しかしどうみても攘夷は不可能であった。その後も人に信じられた偽詐は多数あったようだ。昭和20年まで続いた皇国思想もそうであったと思うし、戦後の知識人にとってはマルクス・レーニン主義もここでいう信の世界ではなかったろうか。

最近の例では消費税とバブル経済が頭に浮かぶ。消費税反対は信の世界であった。今でも朝日新聞は消費税を呪う投書を好んで声の欄で紹介している。当時私達の周囲の労働組合も反対であったが、考えてみれば給与生活者にとっては所得税のクロヨンのクで負担するよりは消費税で負担する方が有利であることは明らかであった。サラリーマンになぜこれが理解されないのかと飯田経夫先生と一緒に首をかしげたものである。

バブル経済も破綻するまでは信の世界であった。それでも当初は株価の異常な上昇を“新人類相場”と名付けた疑の世界にいる人々も存在していたのだが、いつのまにか地価も株価も限りなく上昇するという偽詐を信ずる人達のはびこってしまった。私見では我国の株価は現在でも高すぎるが、これについてはそれ以上触れることは控えたい。それに、当面株価が上がるか下がるかは、私には全く見当のつかない話である。

さて、技術の世界でどうであろうか。

ナトリウムが漏れたから高速炉はやめるというかなり大きな声がある。毒物・危険物が漏れる都度建設や操業をやめていたら世の中から工場が消滅してしまうのではないか。幸いこの声は少なくとも技術者の世界では信の世界にはなっていないようである。

高度情報化社会が今後実現するという見通しは今や専門家も含めて信の世界であるといえよう。そこで私はあえてこれを疑ってみることにした。一体それはどういう社会なのであろうか。より多くの情報が簡単に提供されるとしても、既存のテレビ、新聞、雑誌に優れる伝達能力を持つ情報機器は考えにくいし、かなりの人々にとってはすでに情報過多の社会なのではなからうか。大百科事典がパソコンに収納されたところで、過去に発明されたレコード、ビデオの価値に比べて何ほどのことがあるだろうか。課題だけ与えておけば生徒はインターネットでいろいろ調べてレポートを書き、電子メールで送ってくるので、教授は不要となりつつあると真面目に話している大学の先生がいる。これまでくと偽詐の世界ではないかと思う。

すでに情報・通信の世界は高度化しており、道具の進歩はあっても更に進んだ社会がくるとまでは思えないのである。